

— 広報 — なぎじん

毎月1日発行



村章

4

1992
No.197

●今帰仁村の人口

平成4年2月29日現在
男4,784人(+8) 女4,846人(+8)
世帯数3,080(-3)
村の人口9,630人(+16)



男子今帰仁小A・女子兼次小Aに栄冠

第8回 今帰仁村少年少女ホッケー交流大会

第八回今帰仁村少年少女ホッケー交流大会（主催・村教育委員会）が、三月十五日村総合運動公園で開催された。

大会には兼次、今帰仁、天底の各小学校の男子七チーム、女子五チームが出場した。久しぶりに晴れ上がった天気のもと、家族や友人らの声援を受け熱戦を繰り広げた。

男子決勝戦は息づまるシューゲームの末、四対三で今帰仁Aが天底Bに勝ち優勝。女子は兼次A・Bの対戦となった。堅い守りで互いに点を与えず接戦に。試合終了三分前、みごとなシュートが決まり兼次Aが勝利を手にした。

決勝点を挙げた今帰仁Aの仲里一也選手は「兼次に勝つのが目標で、優勝は夢みたい。勝因はチームワークです」と顔をほころばせていた。同じく決勝点の諸喜田渚選手は「小学校最後の大会で優勝できると嬉しい。ホッケーを続け国民体育大会に出場したい」と五回連続優勝の目標も達成出来、ほっとした様子でした。

平成4年度のわが村の総予算54億8762万9千円



上間村長が予算案の提案事項説明

進められる教育・福祉・産業の振興

平成四年第一回今帰仁村議会定例会が、三月十日開会され、二十七日までの日程で熱心な質疑がかわされています。今議会に提案されたのは、平成四年度一般会計予算案、特別会計(国保・老保・水道)予算案、条例改正案など一六件の議案と一件の同意案件。議案説明に先立ち、提案事項の説明に立った上間博安村長は「村民の福利増進はもとより、村政の飛躍的發展を図るため、積極的に諸施策を展開いたします」と今年度の抱負を述べました。

提案された一般会計予算案は三八億七六〇七万七千円、(前年度比一三・三%の増)、国民健康保険特別会計予算案は七億四三二九万三千円(前年度比六・一%の増)、老人保健特別会計予算案は五億五九〇二万八千円(前年度比九・七%の増)、水道特別会計予算案は三億九二三万一千円(前年度比二二・六%の増)で、総額五四億八七六二万九千円となっています。上間村長の提案事項の説明と一般会計予算案の概要をご紹介します。

村長の提案事項説明概要

村政に対する基本理念

はじめに

平成四年度、今帰仁村議会第一回定例会を招集するにあたり、平成四年度の諸施策と一般会計予算をはじめ、各特別会計及び条例案を提出し、議会の適切なるご審議をお願い申し上げます。

基本理念

平成四年度の諸施策については、各項目で具体的に述べ

将来への展望

村政の基本は、平和を基調に現行の地方自治制度を有効に活用しつつ、村民主体の立場から自治体に与えられた権能を十分に発揮し、村民との対話による開かれた民主的行政をめざすこととあります。

ることとして、ここでは村の将来に向かって村の指標となる基本構想が今年度を基準年次としてスタートいたしますので、これに伴い基本計画、土地利用基本計画を策定し、21世紀を展望する本村の諸施策をより具体的に進めるための実施計画を策定する予定であります。

昨年は国際的には湾岸戦争の勃発、ソ連邦の崩壊、ウルグワイラウンドによる貿易自由化によるわが国農業への圧力、国内的にはバブル経済破綻による経済混乱など内外の社会的経済的情勢は極めてきびしさを増し、今日なお激動を続けております。

しかし、如何なる社会情勢にあっても、村政は地方自治の本旨をしっかりと踏まえ、村民の福利増進はもとより、村政の飛躍的發展を図るため積極的に諸施策を展開しなければなりません。

運天港フェリーバス建設について

今帰仁村の海の玄関、運天港は、議会並び村民のご協力により、伊是名、伊平屋の定期航路の誘致に成功し、昭和

六十三年から伊是名のフェリーの発着を、平成二年には伊平屋のフェリーが就航いたしました。以来振りバスの利用を余儀なくされ、本バスの早期建設に向けて県、政府に対して要請して参りましたが、平成四年の国庫補助が認められ、いよいよ今年度より着手の運びとなります。本事業は港湾整備の一環として接岸バスにとどまらず背後地には管理棟、緑地帯を含め、小公園的体裁を整え、快適な観光港湾として整備されますので、村の経済発展への拠点として期待できるものと考えております。

古宇利架橋の早期実現について

古宇利架橋の早期実現にむけて、既に村独自の予備調査と、古宇利島の振興計画を策定し、要請書を整え昨年県をはじめ沖縄開発庁長官に対して議長とともに直接要請を行って参りました。

県の土木建築部とは細部に亘る調整が残っていたため建設省に対する要請は、今後に残されておりますが、今年度は三次振計の初年度になりま



議案審議の続く平成4年第1回村議会定例会
 円内右は上間博安村長、左が山城正議長

すので、県と細部に亘る調整、条件整備を図り、より高い可能性を求めながら、国の平成五年度予算編成にむけて県の政府に対する予算要求実現の年にいたしたいと考えております。議会並びに村民各位のなお一層のご協力をお願い申し上げます。

上げます。
県内初の葬祭場建設補助について
 村民の日常生活も常に変容を遂げながら時代とともに進展をみております。純農村と言

われる本村においてもアパートが建ち借家住まいも年々増える傾向にあります。このような社会状況で葬祭場の建設は社会的必要性に迫られているとの考えで、建設用地も取得し建設の計画を進めて参りましたが、残念ながら葬祭場に対する国庫補助制度がなく、財源の捻出に苦慮していたところ、県の企画開発部離島交通対策課を訪ね要請したところ、県の財政が許せば、可能性はあるとのことで葬祭場建設に対する県の単独補助事業として、県内で初めて補助金を出させることに成功し、今年度予算で着工することになります。

企業の誘致について

本村は一次産業を主軸に発展してきた純農村であります。村においては、農林水産業の生産基盤と整備を計画的に進め、農林水産業の生産性の向上とより一層の生活の安定を図るため諸施策を講じているところでありますが、第一次産業を取り巻く社会経済的環境は依然としてきびしく、若者が村を離れ、他産業へ流出

し、過疎化が今日なお続いている状況にあります。村の将来を考えるとき極めて憂慮すべきことでもあります。真に「うるおいと安らぎのある村」活力ある村を建設するには村の将来を支える若者の定着を図ることこそ今後の大きな課題であります。

村の基幹産業である農業をしっかりと守り育てながら併せて、商工業の発展を促進し、一次産業と整合性を図りながら村の総合的産業の発展への基礎づくりをしなければなりません。そのために、既存商工業の発展を促すために観光産業の誘致によって雇用の場を創出する生産↓流通↓消費と調和のとれた豊かな村づくりのためにも企業の誘致は必要不可欠だと考えております。本年度は、地域と充分調整を図りながら誘致の実現に努めていく所存でございます。

電子計算機導入について

近年の地方自治体に対する行政需要の著しい増加に対し、財政の枠は限られ、職員定数も抑制傾向にある中で、村民の要望に対応するためには、

コンピュータの特性である総合性と即時性を活かし、事務一元化及び迅速化、重複事務の解消、大量反復作業のコンピュータ処理化を図り、もって、職員の業務処理における判断、計画、立案等に十分な能力を発揮できる体制づくりを行い、村民サービスの向上に努めていきます。

国民年金について

国民年金は、すべての国民を対象に、共通の基礎年金を支給し、健全な国民生活の安定を図ることを目的としています。

本村の国民年金加入者は、平成二年度末現在で、二、二、三三人、保険料納付月数、二、九四六月、一〇八、七四六千円の納付状況になっております。

年金受給者も年々増加し、平成二年度の拠出年金受給者一、七八九人、八五五、〇〇三千円、福祉年金受給者、三二二人、一〇四、九〇六千円合計、九五九、九〇九千円の巨額に達し、村民の福祉向上に大いに貢献し、併せて村民経済に多大な影響を及ぼすようになりました。

平成元年度にスタートした村全体の国民年金推進協議会

及び、全字に推進協議会を結成し村ぐるみの年金推進対策を図っています。

また、指導員も二人採用し戸別訪問による勧誘指導、納付指導を展開してまいりました。

平成四年度においても、指導員の強化を図るとともに、広報車の活用、村広報誌の活用、年金推進協議会の活用により、無年金者がでないよう加入納付等の周知徹底を図り、村民の福祉向上に努めてまいります。

国民健康保険 について

(1) 一般的事項

本村の国民健康保険事業は、昭和四十七年十月一日より開始し、住民生活に深く根をおろし村民の健康の維持増進に大きく貢献してまいりました。

しかしながら現在、国民健康保険は高齢化社会の急速な進展の中で老人医療費に対する老人保健拠出金の大幅な増加を招き国保財政を大きく圧迫し、きわめて厳しい運営を強いられております。とくに被用者保険に比べ高齢者の加

入の割合が高くかつ急激な増加により、数次にわたる制度の改正にもかかわらず、老人医療費の負担問題は依然として国保の大きな課題となっております。

さらに、近年の医療施設の増加、最新医療機器の利用、疾病の多様化、長期入院等により、医療費は年々増加し、村民所得の伸びをはるかに超える勢いをみせています。

このような厳しい状況の中で国保会計は、一般会計からの繰入や基金繰入を図っております。そして、歳出抑制策としてレセプト点検の強化、各種保健施設事業を展開しております。また歳入確保のため、収納率の向上を図るとともに健全財政の確立をめざし努力しているところであります。

このように保険者が創意工夫をこらして医療費の抑制や財源の捻出に努力しているにもかかわらず国保財政の厳しさは好転していない状況であります。このような情勢のもとにおいては、本来相互扶助の精神で運営されるきわめて大切な制度である国民健康保険は地域保険としての機能を十分に果たしていくことが困難になることが予想されま

す。したがって国民健康保険制度を将来にわたって長期的に安定させるために各種の施策を積極的に推進するとともに、国庫負担金の負担割合の増額や補助金の増額要請、さらには諸制度の充実強化のための制度改正を求め、全国国保連合会を中心に全国の市町村長や知事とともに活動を強化しているところでございます。

(2) 今年度の制度改正の主な事項

改正の主な事項

今年度は国において国保の制度の改革がされ、国も国保財政の確立に向けて大きく動きだしました。まず国民健康保険に従事する職員の人件費は従来国庫補助金として国保会計で処理されてまいりました。しかし今年度からは国の予算が一般会計に計上され、各自自治体の地方交付税に算入されることにともない村においても一般会計予算に計上し、国保会計に繰出すことになりました。また、助産費の大幅改定も行われ従来の十三万円から二四万円に引き上げられることになりました。これは、国保と被用者保険との格差を是正する目的で実施されるもので、

国庫補助金も従来の二分の一補助から三分の二補助に引き上げられることが決まっております。これをうけて本村においても国の基準どおり実施してまいる所存であります。

村税の賦課徴収 対策について

国または、地方自治体が地域経済活動を円滑にし、村民の生活をより豊かにし、福祉の向上を図るなど地方公共団体が行政サービスをするための費用を国民一人一人に負担してもらおうのが税金であります。本村の平成四年度予算案としては、村税として三億五三七〇万円を計上しています。これは一般会計に占める割合は九・一％となり前年度より五七、六四七千円十九・五％も伸びています。伸びた理由といたしまして、村民所得の増加、新築家屋の増、リゾートホテルやゴルフ場等の誘致企業の税収が大巾に伸びた為であります。

次にこれまでの徴収率については、各区長や関係機関、村民の理解と協力により年々向上し、平成二年度は九五・五

％と県内十二の位置にあり心より感謝申し上げます。今年度も税務職員のお一層の努力と誠意をもって徴収率の更なる向上に努めてまいる所存であります。

さて、村税の最大の課題は、徴収率の向上と住民に正しく申告をさせるということにあります。

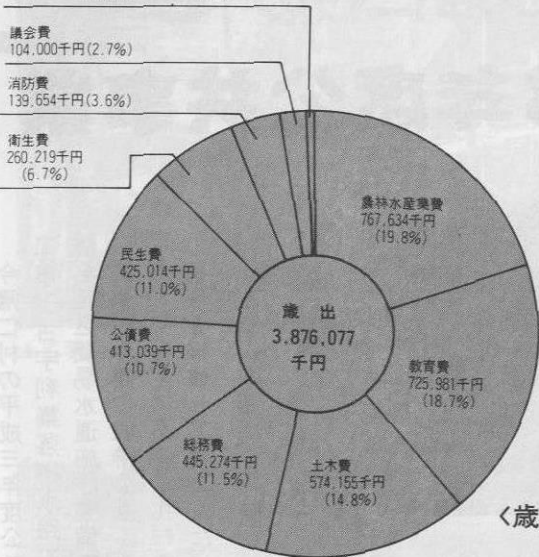
これら徴収率の向上と正しい申告を推進する為には村民の意識の高揚を図ることが最も肝要です。その為、これまで各区長への協力依頼とともに立看板の作成、税の広報委員会の設置、税の作文・標語コンクールの実施、広報紙へのタックスコーナーの設置等を行ない長期的展望のもとに意識の高揚に努めてきたところであります。

今年度は、従来の諸施策をさらに充実させるとともに他県の納税意識の高い地域を研修するとともに、公正公平な賦課徴収と笑顔で納税できる親切でいねいな職員対応をめざしてまいります。

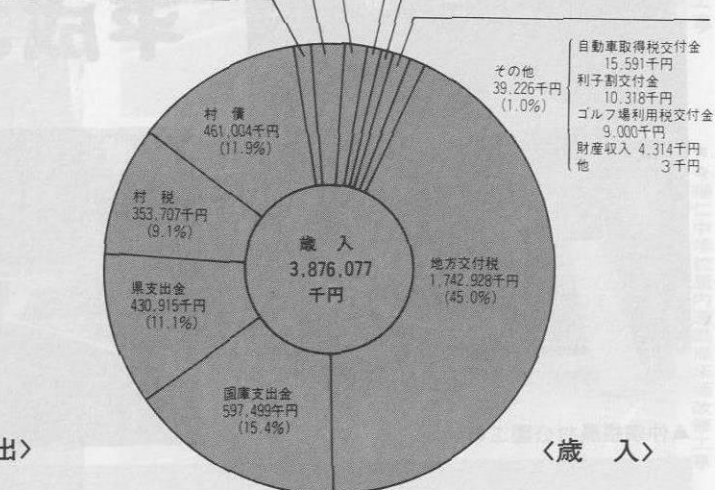
うるおいとやすらぎのある福祉と 保健衛生の向上

平成4年度一般会計予算案の概要

商工費 14,100千円
 子働費 7,000千円
 災害復旧費 3千円
 諸支出金 3千円
 労働費 1千円
 その他 21,107千円 (0.5%)



地方譲与税65,705千円(1.7%)
 諸収入82,050千円(2.1%)
 繰入金42,004千円(1.1%)
 使用料及び手数料35,523千円(0.9%)
 分担金及び負担金25,518千円(0.7%)



〈歳出〉

〈歳入〉

老人福祉について

わが国は、今や平均寿命八〇年という世界最長寿命国になった。さらに21世紀には四人に一人が六五歳以上人口という世界で最も高齢化の進んだ国になる。

この長い生涯を健康で生きがいと喜びをもって過ごすことができてはじめて人は長寿をことほぎ、高齢化社会を明るい活力に満ちたものにすることができる。

このような長寿福祉社会を実現するために、国では平成二年度を初年度とする「高齢者保護福祉推進十ヶ年戦略」が策定されました。本村も21世紀の明るい長寿・福祉社会をめざして「を基本的考え方に立って行政を展開して行く考えであります。

児童福祉について

高齢者社会が進む中、本村における老人人口は、平成三年十月一日現在一、八二八人で全人口の約十八・九七％に達しています。核家族化による一人暮らしの老人が三〇七人、ねたきり老人が九三人となっており、公衆衛生の向上医療技術の進歩等により高齢人口は着実に伸び、高齢化対策は今後とも村政の大きな課題となっております。

このような状況を踏まえ、村では社会福祉協議会とタイアップして老人家庭奉仕員派遣事業や地域福祉基金を活用したデイサービス事業の拡大充実を図り虚弱老人や一人暮らし老人の生活の自立、社会的孤立感の解消を図るとともに特別養護老人ホーム乙羽園と連携を密にし、ねたきり老人短期保護事業も推進してまいります。

また、今年度は、高齢者サービス調整チームを新たに設置し、個々のニーズに合った保健、医療、福祉サービスが受けられるよう進めてまいります。

それに、一人暮らしの老人で特に必要な人を毎日訪問して声をかけ、励まし安否を確認することにしていきます。

保育事業について

そのためには社会環境、各家庭がその育成の基盤であり、子供達は各家庭で正しい知識と愛情によって育てられることが大切なことは申すまでもありません。

一方、急激に変動している社会生活の中ですれば疎外されがちな障害をもつ児童等に対しては、地域や行政の立場からあたたかい手をささのべる施策等を積極的に推進してまいります。

保育事業につきましては、豊かな人間性と創造力に富んだ心身ともに逞しい子供の育成のため、保育環境の整備を図り、より充実させ伸び伸びと保育していく方針であります。また、今年も継続して障害児保育を行ってまいります。これにより子供たちは、いたわりと助け合う心が養われ、真の人間性を育むことに大きな成果をおさめているところであります。

それに、ことばに遅れのあ

る幼児の指導も行い大きな成果をあげているところであります。本年度もこの事業に対する助成を行ふ事業の強化を図ってまいります。

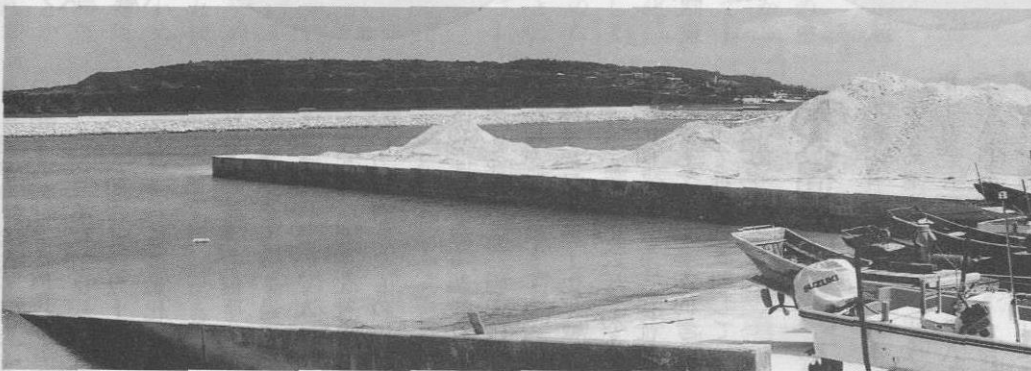
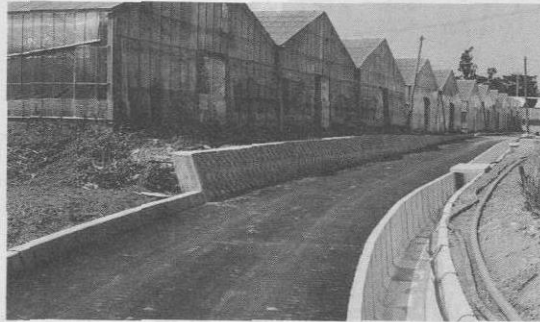
21世紀を担う児童が、心身ともに健やかに育つことは村民すべての願いであり、期待するところであります。すべてのこどもが愛され、尊ばれる社会の一員として重んぜられるとともに、より良い環境の中で育てられなければならない

に、ことばに遅れのあ



▲仲宗根農村公園工事

▶運天農道新設工事



▲運天漁港北護岸、東護岸、北防波堤、東波除堤工事

進む生活環境整備

今帰仁村の

平成3年度公共事業

今帰仁村の平成3年度公共事業は、湧川港線特改一種工事、古宇利集落排水路工事、仲宗根農村公園工事、謝名地区簡易水道施設整備工事、呉我山古呉我線道路改良工事、今帰仁城跡公園ふるさと道路工事など、うるおいとやすらぎのある文化村づくりの一環として、数多くの事業を推進してきました。ここでご紹介いたします。

平成3年度
公共工事発注状況
二月二十九日現在

- ①クレーン設置工事
役場会議室、村長室、応接室
三、〇九〇、〇〇〇円
- ②今泊集落道工事
集落道一八六m
一八、〇二五、〇〇〇円
内開建設
- ③湧川港線特改一種工事
改良三六〇m
二七、二九五、〇〇〇円
嘉陽組
- ④今帰仁中学校屋内運動場床面
改修工事
床面改修九四〇㎡
一九、五七〇、〇〇〇円
島政建設
- ⑤湧川農道工事
農道四八七m
四一、五〇九、〇〇〇円
旬星土建工業
- ⑥天底農道工事
農道五二一m
三九、一四〇、〇〇〇円
島政建設
- ⑦運天漁港北護岸、東護岸、北
防波堤、東波除堤工事
北護岸八七・三、北防波堤五
〇m、東護岸五六m、東波除
堤十・五m
一二九、七八〇、〇〇〇円
旬武国建設
- ⑧渡喜仁、天底線道路改良工事
改良四八〇m
- ⑨仲宗根運天線道路改良工事
改良二八〇m
四七、八九五、〇〇〇円
旬山川建設
- ⑩富原林道舗装工事
舗装七一・三m
一三、一三三、五〇〇円
旬旭土建
- ⑪仲宗根農村公園工事
東屋、展望台、便所、遊歩道
二八、三二五、〇〇〇円
新城組
- ⑫古宇利集落排水路工事
集排一八九m、集道一〇六m
一六、一七一、〇〇〇円
旬山川建設
- ⑬村立診療所補修工事
屋根防水五八八㎡、外部塗装
六四〇㎡
九、二七〇、〇〇〇円
旬国吉組
- ⑭役場構内アスファルト工事
構内舗装一〇六〇㎡
二、一六三、〇〇〇円
旬金良建設興業
- ⑮謝名地区簡易水道施設整備工
事
七三、一三三、〇〇〇円
旬北山建設、旬金良建設興業
建設工業共同企業体
- ⑯上運天地区下水排水路工事
下水排水路4条六八二m

羽地内海、ムラ移動や塩づくりの歴史が

嵐山から見るこの風景(写真)。内海に浮かぶ島がヤガンナ島、そして中央部の海峡がワルミ海峡(運天水道ともいう)、その右手が屋我地島(名護市)、左手が湧川から天底・上運天・運天に至る。その向こうに見えるのが古宇利島である。遠くには、伊是名や伊平屋島がかすかに見える。ヤガンナ島は、今帰仁村字湧川の佐我屋原に属する。嵐山の展望台から眺めるヤガンナ島周辺の美しさとは別に、墓の島あるいは塩づくりの島としての歴史をもつ。

一八一六年十月バジル・ホールは、ライフ号を運天港の入口付近に投錨し、三隻のボートで羽地内海や内海に面した週辺の村々、そして屋我地島や湧川の塩田などを確認し図面に記してある。羽地内海を湖と表現し、「長さ数マイルにおよび、たくさんの小島が点在している」と概況を述べている。

一八四六年にはフランスの

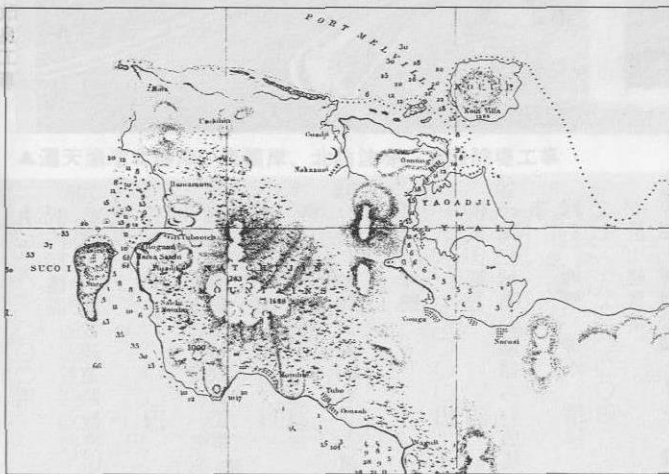
艦船が、その後の一八五六年にはペリーの一行も運天港から羽地内海まで足を伸ばし、地図を作成している。このように近世期末に外国船が琉球を訪れたとき、探険が試みられた場所でもあった。

写真の左手に見える集落は湧川であるが、蔡温の林業政策で一七三八年に新設された

ムラである。現在の湧川地内には、一七三六年まで振慶名や松田、我部・桃園などの村があり、移動させられ湧川村を新設した地域である。首里王府の政策によってムラ移動がなされ、湧川という新しいムラの創設がなされた。言ってみれば、政策的ムラ移動のあった歴史的な場所である。



▲嵐山から見た羽地内海(1990年7月)



▲「ペリー提督遠征記」(ISLAND of LEW CHEWの一部) 1853~4年

ヤガンナ島とその対岸(手々原)には塩田跡の石積みも今でも残り(写真参照)、昭和三十五、六年頃まで塩づくりがなされ、手前の船のある場所にも塩田があった。地籍図には、地目「塩田」として今でもある。

羽地内海に面した我部村と塩にまつわる伝説や記録がいくつかみられる。例えば、一七一三年の「琉球国由来記」に、琉球国の塩は羽地県(間切)の我部村に始まるとか、「沖縄県頭郡志」にはワルミの洞窟に一人の僧が来て住

み、はじめて製塩の方法を人民に授けたなどの言い伝えを紹介している。湧川の下我部には、塩づくりと関わる塩屋の御嶽があり祠を建て祭っている。塩づくりの方法は別にして、一七一三年の「琉球国由来記」や一八一三年のバジル・ホールの図にも塩田があり、塩づくりがなされていたことがしれる。一帯は、塩づくりと関わる場所である。

運天港が自然の良港として使われ、その奥にある羽地内海は船の避難場所として利用されてきた。嵐山の展望台に立つ時、眼下に見える島がヤガンナ島、別名墓の島。島と対岸に見える塩田跡が塩づくりの歴史や伝説をよみがらせ、そして蔡温の時代に政策的なムラ移動がなされた歴史などを思いめぐらしながら眺めるのもよい。塩田跡はそこに住み、塩づくりを営んでいた人々の辛苦をなめた塩辛い歴史的な遺産として今でも残っている。現在みることできるあたりまえの風景であるが、そこに秘められた歴史をひもとく手がかりを与えてくれる場所であり写真である。

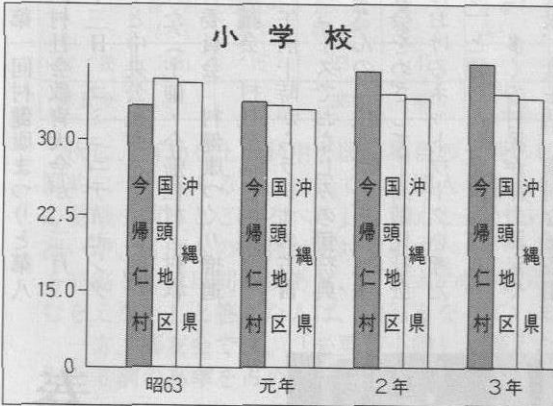
仲原 弘哲

(歴史資料館準備室)

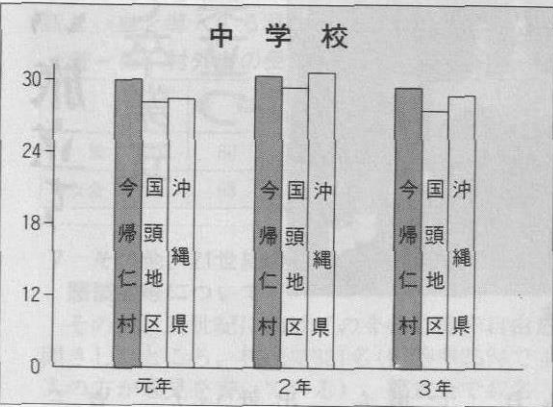
小学校達成度テスト

	2教科平均			
	昭63	元年	2年	3年
今帰仁村	32.7	33.2	36.0	37.1
国頭地区	35.4	32.6	34.0	34.5
沖縄県	35.2	31.9	33.8	34.9

昭和六三年度からスタート



しかし、村学力向上対策等の成果もあって、今では県や地区平均値を超越している状況であります。これまでの取り組みを今後も継続が確認されていますので、成果が期待されます。



③今帰仁村の場合は、常に国頭地区平均値よりは上位に収り、平成二年度以外にも本村が上位にあることがわかります。しかし、得点は二十九、四点で、達成度は六十パーセント弱であり今後も努力が必要であります。小学校・中学校ともにかなり努力の成果が表われつつあります。学対に対する村民の意識の変容により、教育立村をめざす今帰仁村に明るい展望が開けた感があります。

目を見張る向上

《小学校達成度成績》

小学校六年生においてこれまで学習してきた内容がどれだけ自分自身のものとして定着しているかを調査する目的で実施されるのが達成度テストです。

①まず、表とグラフから今帰仁村の結果を比較することで、私達のこれまでの努力とこれからの方策等について考えていきたいと思えます。

②初回の結果では、県や地区平均値よりもかなり低い位置にあり、県内でも最下位のグループにありました。

し、今年度まで四カ年実施しています。その結果が左の表やグラフです。県平均と国頭地区・今帰仁村の結果を比較することで、和六十三年の第一回目の結果は三十二、七点で、今年は三十七、一点になり五十点満点で四、四点も向上しています。仁村の平均値をみてみると昭和六十三年の第一回目の結果は三十二、七点で、今年は三十七、一点になり五十点満点で四、四点も向上しています。

平成二年度達成度テスト

小・中学校とも県平均を上まわる

学校・家庭・地域・行政の連携を評価

平成元年度から三カ年間今帰仁村が取り組んできた沖縄県指定基礎学力向上推進地域として、学校・家庭・地域・行政が連携して児童生徒の基礎学力の向上と定着のために努力した結果順調に成績が向上してきました。

中学校達成度テスト

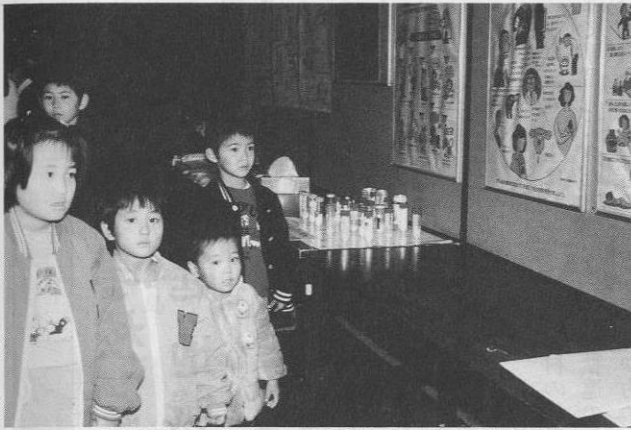
	3教科平均		
	元年	2年	3年
今帰仁村	29.9	30.4	29.4
国頭地区	28.4	29.6	27.8
沖縄県	28.8	31.0	29.0

中学校二年生に毎年実施されて、三カ年になります。

《中学校達成度成績》

教科は、国語・数学・英語の三教科の実施で、三教科平均値の比較を表とグラフにしてみました。今帰仁村と国頭地区や県平均値を比べて考えてみます。

県平均より向上



▲「健康コーナー」の資料に見入る子どもたち

健康食試食コーナーでは、今帰仁村食生活改善推進員の皆さんが栄養と味のバランスに工夫を凝らした炊き込みご飯と野菜スープをいただき「おいしい」と好評を得ていた。体力測定コーナーでは巻尺たぐり、上下動作テスト、棒反応テスト、輪抜けテストにお年寄りの方々が挑戦していた。

活力ある健康村めざして

健康まつり・社会教育振興大会

催しと展示にぎわう

第一回村健康まつりと第八回村社会教育大会が、二月二十三日、コミュニティセンターと中央公民館を会場に開かれた(主催・今帰仁村、村教育委員会、村健康づくり推進協議会、村社会福祉協議会)。午前十時からラジオの方言ニュースでおなじみの伊狩典子さんの「生きがいある地域社会をめざして―高齢化社会におけるネットワークを考える」と題した記念講演があった。多くの村民が体力測定や健康、食生活、歯科など各相談コーナーを通して健康について考えた。

春いよ新しい旅立ち

北山高校で卒業式

98人が巣立つ



▲「新しい人生の門出」に笑顔いっぱいの卒業生

県立北山高校の卒業式が、三月一日午前十時から同校体育館で行なわれた。

卒業生は温かく育んでくれた先生や友人たちと三年間通った慣れた学校に別れを告げ、就職、進学と新しい道を歩み出した。

卒業生九十八人は在校生から拍手で迎えられ、笑顔で入場。卒業証書を受けて、感激に涙する生徒もいた。

新垣清校長は「皆さんは、自分で選んだ道へ第一歩を踏み出します。三年間培い、蓄えてきた熱いパワーを全開して、ひるむことなく自信をもって新たなチャレンジスピリッツをそれぞれの場で発揮してください」とはなむけの言葉を贈った。

在校生を代表して、宮里恵さんと東恩納正君が送る言葉を述べ、卒業生の具志堅健君と照屋奈津紀さん、神谷繁太君が「北山高校で学んだことをこれからの歩みの中で生かして一生懸命頑張ります」と感謝した。

式の後、卒業生は在校生の並ぶ花道をくぐり、花束や紙吹雪で祝福を受け、どの顔も新しい門出に胸を膨らませていた。

